

献 辞

大分大学経済学部長 阿 部 誠

本学助教授の山本勝先生は、平成16年3月31日をもって定年をむかえられ、全学の学生と教職員に惜しまれつつ、35年の長きにわたって教鞭をとられた本学に別れを告げられた。大分大学経済学会は、本学の教育研究のために長年にわたって貢献された先生のご功績を称え、感謝の意を表するために、ここに退職記念論文集を刊行して先生に献呈することにした。

先生は昭和16年1月25日に京都市にお生まれになり、学校を卒業された後いったん三菱電機に就職された。その後、定時制高校を経て昭和37年4月に神戸大学経営学部に入學され、昭和42年3月に同大学をご卒業になった。さらに同年4月に神戸大学大学院経営学研究科修士課程に進學され、昭和44年の3月に同課程を修了された。そして、昭和44年の4月に経済学部助手として大分大学に赴任された。その後、昭和46年4月に講師、49年4月には助教授に昇任され、さらに平成8年より大学院経済学研究科を担当されている。また、1985年から1年間文部省在外研究員として米国のイリノイ州立大学で研究を積み重ねられた。

先生のご専門は経営戦略論であり、経営戦略に関する概念や理論などを整理されるとともに、経営戦略の実践につながるような調査研究を続けてこられた。その業績は巻末の著作一覧に表れている。

教育の面では、本学部で長年にわたって経営戦略論とオペレーションズ・リサーチの講義を担当されたほか、教養科目や経営学入門などの講義ももたれた。いずれも学生の人気の高い講義であり、多くの学生が先生の講義を受けた。先生のゼミも人気が高く、演習を通じて多くの学生を育てられた。先生は、松下幸之助や小林一三など理念をもった日本の経営者に関心をもたれており、授業などを通じて先生がそうした経営者の人物像を熱心に語るのを聞いた者は少なくない。

一方、大学院においては、平成8年度より経営意思決定論特研の講義を担当され、研究指導にもあたられた。これらに加えて、先生は留学生の指導にもたいへん熱心で、交換留学生、大学院生を含めて多くの留学生が、先生の教えを受け、日本の企業や経営について学ぶとともに、生活の面でも大きな援助を受けている。

先生は、教育研究活動とならんで本学の運営の面でも、多くの委員をつとめるなど大いに尽力された。とくに、平成2年8月から2年間は補導委員長（当時）として、学生の生活面についての指導、援助に主導的な役割を果たされた。こうした職務をはずれても、先生は学生の指導にたいへん熱心で学生に慕われていたことは、よく知られている。先生は、教室の中ばかりではなく、学生とドライブに出かけるなど学外でも学生とのふれあいを通じて語りかけることに熱心であり、多くの学生が、先生との幅広い交流のなかで生き方を学ぶことになったのである。

大学の外においても、先生は多くの社会的な活動に取り組んでこられた。とくに商業活動調整協議会（当時）の委員などを務められ、地域の商業の発展のために力を尽くされた。また、経営戦略論の専門知識を生かし、行政機関、商工団体等からの依頼に応じて多くの審議会の委員を努められ、調査活動などにも取り組まれた。

先生は人柄が温厚で親しみやすく、学生にたいへん慕われていたばかりか、同僚からの信頼も厚かった。先生の人柄に魅せられた者は学生ばかりか教職員の中にも少なくない。

こうした先生が本学の教壇を離れられたことは寂しい限りであるが、定年とはいっても先生はまだ若々しく、お元気である。本学にちかいところにお住まいのこともあり、今後もぜひ我々をご指導ご鞭撻いただきたいものである。先生の新たなご活躍を祈念するとともに、ますますのご健勝をお祈りする次第である。